

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭)／
福井 典代

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

①授業実践として、「初等家庭科教育論」(約180名受講)において取り組んでいる授業内容では、家庭科に関する基礎的な実験を行うことにより、学校現場で活用できる実験・実習教材を提供できる。この授業では、小学校家庭科の学習指導案が作成できることを最終目標としているため、期末試験で実験・実習を取り入れた学習指導案の作成(持ち込み不可)を行う。
②「初等家庭科教育論」において、家庭科に関する基礎的な実験を行い、小学生を対象とした学習指導案の作成と模擬授業をグループ単位で行う。
③「初等家庭科教育論」において、毎回提出する小レポート、模擬授業の自己評価・相互評価、期末試験で実施する学習指導案の作成(持ち込み不可)から総合的に成績評価する。

2. 点検・評価

①「初等家庭科教育論」(176名受講)において、班(約10名のグループ)別に家庭科に関する基礎的な実験を6回実施した。その後、それらの実験を取り入れた学習指導案の作成と模擬授業を班別に実施して、授業内容と学習指導案の修正を行った。最後に、実験を取り入れた学習指導案の作成を期末テストで実施した。
②「初等家庭科教育論」において、座学だけでなく実験を取り入れた体験的な学習活動を行い、家庭科に関する基本的な知識の定着を図った。
③「初等家庭科教育論」において、毎回提出したレポート(9回分)(33%)と模擬授業の自己評価・相互評価(6回分)(33%)、期末テストで実施した学習指導案(33%)から総合的に成績評価を行った。なお、欠席回数、遅刻回数も成績評価に含まれているとともに、欠席回数が5回以上の学生はD判定である。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学生が主体的に授業に参加できるように、講義科目であっても実験・実習を組み込んだ授業を積極的に実施する。
- ②2名以上で担当する授業について、講義内容の連携を密にする。
- ③卒論・修論指導の学生に対して、進路の相談に応じる。

2. 点検・評価

- ①学生が主体的に授業に参加できるように、講義科目であっても(例えば、「初等家庭科教育論」、「衣生活学」、「衣生活学研究」、「家庭科授業・教材開発研究」など)実験、実習を取り入れて授業を実施した。
- ②「初等家庭科教育論」では2名の教員が役割分担して実施しているが、すべての授業に参加してお互いの授業内容を理解したうえで授業を進めた。
- ③卒論・修論指導の学生(2名)だけでなく、中学校や高等学校の家庭科教諭をめざす4名の学生に対して、採用試験の2次試験で実施される実技指導を行った。
- ④9名の学部2年生全員に対して、クラス担任として一人ずつ生活や授業、進路等の相談に応じた(前期1回、後期1回)。また、食事を一緒に取りながら、親睦を深めた(2回)。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①従来から研究を進めている「節電に着目した環境教育に関する教材の開発」をまとめて、日本家庭科教育学会で発表する。
- ②科学研究費補助金の申請を行う。

2. 点検・評価

- ①「地域の特性を生かした各種繊維の草木染め」という題目にて、日本家政学会第65回大会で発表した(5月)。「節電に着目した環境教育に関する教材の開発」という題目にて、日本家庭科教育学会第56回大会で発表した(6月)。「大学構内の樹木を用いた染色とその教材化」という題目にて、第60回日本家政学会中国・四国支部大会にて発表した(10月)。
- ②科学研究費補助金(基盤研究C)の申請を行った。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

就職委員会、教職実践演習実行委員会の各委員として、大学の運営に貢献する。

2. 点検・評価

就職委員会、教職実践演習実行委員会の委員として、本学の運営に貢献している。
特に、就職委員会では、委員としての面接指導(2回)だけでなく、夏休みに実施される教員採用試験の二次対策の面接官として、学生の指導を行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

- ①教育支援講師・アドバイザーに登録し、地域・社会との交流・連携を行う。
- ②平成25年度教育免許状更新講習の講師として任務を遂行する。
- ③日本家庭科教育学会四国地区会会長として任務を遂行する。

2. 点検・評価

- ①教育支援講師・アドバイザーに登録して、徳島市佐古小学校、附属中学校、総合教育センターにて講師や審査員を引き受けた(5回)。
- ②教育免許状更新講習は受講生が5名以下のため、開講されなかった。
- ③日本家庭科教育学会四国地区会の会長として、学会の運営に貢献した。
- ④日本繊維製品消費科学会中国・四国支部幹事として、学会の運営に貢献した。
- ⑤愛媛大学附属高等学校において、文部科学省受託事業「消費者教育推進のための調査研究事業」の運営指導委員として、事業の運営に貢献した(1回)。
- ⑥放送大学講師として、第1学期面接授業を実施した(4月)。
- ⑦徳島県消費生活審議会の委員として、審議会の運営に貢献した(2回)。さらに「徳島県消費者教育推進計画」の作成にあたって、消費者教育推進部会の部会長として、7名の部会委員の意見のとりまとめを行った(2回)。
- ⑧2014年1月から、日本家政学会の代議員として選出された(任期2年)。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- ・卒論指導の学部生1名が兵庫県中学校の家庭科教諭として正式採用された。
- ・放送大学の第1学期の面接授業を行った結果、来年度の面接授業の講師を再度依頼された。
- ・教育支援講師・アドバイザーとして、徳島県の中学校家庭科教員の研修会に3回参加した。
- ・徳島県消費生活審議会 消費者教育推進部会の部会長として、「徳島県消費者教育推進計画」の作成に積極的に関与した。